

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：32642

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370708

研究課題名(和文) 英文読解における語彙力の涵養と語彙習得指導の実践：未知語に関する推論の力の活用

研究課題名(英文) Nurturing vocabulary knowledge and developing vocabulary acquisition tasks in reading comprehension: making use of capacity to infer unknown words

研究代表者

田近 裕子 (Tajika, Hiroko)

津田塾大学・学芸学部・教授

研究者番号：80188268

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、英文読解指導の過程で、とりわけ未知語の意味を推論する力を活用することに注目して、語彙力を高めるためにはどのような指導が可能かを探索するものである。英文読解では、意味の把握のため語彙知識の果たす役割は大きいものの、語彙知識がどのように読解に影響を及ぼすかについては十分な研究がなされてきていない。本研究では、未知語に遭遇した時に、学習者がどのような方策で語の意味を推論し、探り当てていくのかを調査し、その効率性を検証することに拠り、語彙習得指導のためには、どのような語彙学習の可能性があるかを明らかにし、英語教育への示唆を得ることを目指す。

研究成果の概要(英文)： The purpose of this study is to explore what can be the possible guidance to enhance vocabulary competency with particular emphasis on making use of learners' ability to infer unknown words in the process of reading English passages. In the past, although we know that vocabulary knowledge plays a major role in second language reading, research on how vocabulary knowledge functions in the process of attaining the meanings of written passages has not been made clear enough. The present research tries to clarify how second language learners infer and attain the meanings of vocabulary words and how such process can be utilized for second language acquisition and ultimately deduce any effective ways to guide learners to acquire L2 vocabulary. Upon this clarification, pedagogical implication for teaching/learning English will be clarified.

研究分野：応用言語学

キーワード：未知後 推論 語彙 読解 語彙レベル 語彙指導 第二言語習得 外国語

1. 研究開始当初の背景

第二言語習得研究の中で、英文読解に関するリサーチが多数行われてそれなりに、読解についての知見はあるものの、読解における語彙の位置づけに関する成果はあまり上がっていないと言えよう。テキスト読解力と語彙力が強い相関関係にあることは既に指摘されているが、その因果関係は未だに不明である。母語においても第二言語学習においても、Matthew Effect (Stanovich, 1986) とされる現象、すなわち、語彙力のある者はテキスト読解に優れ、テキスト読解に優れている者には語彙力があるという関係である。逆もしかりで、語彙力がなければテキスト理解が苦手で、テキスト理解が苦手なものは語彙力がつかないということも言える。従来多くの研究者が、では、どうすればテキスト読解力が身に付き、また、語彙力が養われるのかについて研究を重ねてきている。なかでも、最近重要性を指摘されているのが、lexical inferencing, fluency of lexical identification, width of vocabulary, depth of vocabulary, formulaic expressions, sentence structure knowledge などである。本研究では、特に lexical inferencing に注目する。Lexical inferencing とは、学習者がテキスト読解の過程で未知語に遭遇した際、さまざまながかりを駆使して、どのように語の意味を推論し、テキスト理解に到達するのか、そのストラテジーを含めて、読解力と深く関わるとする研究成果 (Hendrickson, 2002) が報告されている。Nassaji (2004) では、lexical inferencing の力は学習者の持つ語彙の深さ(depth)と深い関わりがあるとされている。また、Fraser(1999)の lexical inferencing 研究では未知語の推論を行った後に辞書等で正確な意味の確認がなされた時に最もよく語彙が習得され、さらに、保持されるとしている。

2. 研究の目的

以上の背景を踏まえて、本研究では、英文テキスト読解力を養うのに有効とされるさまざまな語彙に関わる要因について検証し、語彙習得のためにはどのような指導法が有効なのかを明らかにすることである。とりわけ、lexical inferencing とされる、未知語の意味を推論する過程で培われる語彙力 (Fraser, 2004) に注目しつつ、複数の語彙習得に関わる要因について検証する。その上で、日本の英語教育では、最も未開発とされている語彙習得領域に新たな光を当てる。

3. 研究の方法

3年計画で、基礎文献研究から実験データ収集および、指導法への応用、まとめのワー

クシヨップ開催まで行う。初年度の基礎研究を元に、第2年度には、日本の英語学習者約60名を対象に実験を行いその結果をまとめる。最終的にはシンポジウムないしはワーキングシヨップを開催して、成果を共有する。

4. 研究成果

成果報告としては、以下(1), (2), (3)の3本の発表論文および、(4)最終年度に行った国際シンポジウムについて述べることにする。

(1) The Role of Lexical Inferencing in L2 Reading Comprehension. CAES International Conference (Faces of English: Theory, Practice and Pedagogy). Hong Kong にて発表。

未知語の推論について、英語を自分の専門あるいは類似した領域として捉えている大学生79名を対象に、調査を行った。読解過程において、未知語に遭遇した時、学習者の持つ語彙力はどう影響を及ぼし、また、学習者はどのような手段でその未知語の意味を推論するか、用いられる主な手がかり等を明らかにしようとした。具体的には、以下2点のリサーチ・クエスチョン、RQ1-a、1-bおよびRQ2を立てた。

RQ1. 学習者の語彙知識は、未知語の推論にどのような影響を与えるか。RQ1-a. 学習者の語彙レベルによって学習者が用いる推論の種類は異なるのか。RQ1-b. 学習者の語彙レベルによって学習者が到達する未知語の推論の成否が異なるのか。RQ2. 推論のタイプの中で、より成功するものとそうでないものの違いはあるのか。

79名の参加者を3レベルに分け、実験用テキストとしては Nation 著の Essential 4000 Words 中のパッセージを用い、10語の未知語について調査した。また、学習者の用いる推論のタイプとしては6種類を想定した。すなわち、単語、文、ディスコース(一文を越えて、文と文の関係性が手がかりとなる場合)、母語と目標言語の関係性、社会一般知識、以上の複合の場合である。

結果として得た事は、以下である。

RQ1-a: 学習者の3レベルにおいて、差はあまりなく、いずれのグループも単語レベルの手がかりを基にした推論を多用した。単語の次に手がかりとなったのは、一文レベルの情報および複数の手がかりを合わせて使用する事だった。これは、先行研究とは異なった結果であり、一版にはレベルの高い学習者はより広い範囲の手がかりを元に推論を行っていると言われていた。したがって、本研究に参加した学習者の特色かともいえる。日本

の英語教育の在り方からの影響も考える必要がある。

RQ1-b: 語彙レベルは明確に推論の成否を左右した。本研究では、推論の成否について、正しい結果と間違っただけでなく、その中間、つまり部分的には推論できているが及ばない点のある解答が多数あり、部分的に正しいとしなければならない回答が多数あった。したがって、分析上、正しい、いずれとも言えない、間違いの3分類でデータ処理を行ったが、語彙知識の3レベルについて、上位グループは圧倒的に正しい推論が多い一方間違っただけの推論が少なかった。一方、語彙知識の少ないレベルの学習者では、正しい推論が少なく、間違っただけの推論が最も多かった。

RQ2. 語彙知識において上位の学習者は、複数の手がかりを効果的に用いて、未知語の意味を推論しているように考えられる。また、このレベルの学習者は母語と目標言語との関わりについても推論の手がかりとしていえると言事である。

以上の事から、未知語の推論には複数のストラテジーを複合的に用いる力が必要とされると考えられる。とはいえ、本研究の成果と先行研究とは必ずしも一致しないのである。いずれにせよ、まだまだ研究の余地ありである。

(2) Lexical Inferencing in Context in L2 Reading Comprehension. BAAL (British Association for Applied Linguistics 2016 Conference). Cambridge, UK にて発表。

本研究は、読解過程における未知語の推論の詳細を5名の参加者について調べた、質的調査である。英語力において中級でもより高度なレベルの学習者に、テキスト理解の過程において、未知語に遭遇した時にどのような推論を行うかを知るため、読解過程を通して口頭で発音してもらい、それを録音した。分析対象としては、録音データを文字起こしたテキストを分析し、推論のプロセスを詳細に検討したものである。

RQ1. 学習者はどのような手がかりを推論のために用いるのか。

RQ2. 学習者の用いる推論で、正しい推論につながる要素とそうではないものは何か。

調査の結果得た事は、以下である。

RQ-1: 学習者が用いた推論の手がかりで最も多用されたのが文レベルであった。本研究の参加者は海外留学等を行い、通常の生活でも比較的英語をよく用いる者であったが、

傾向として、一文レベルの手がかりを正確に用いて推論しようとする傾向が強かった。むしろ、文の前後関係や背景知識などをもちいるより、文構造の手がかりから、未知語の意味を割り出そうとしていた傾向がある。

RQ-2: 参加者の発話データからは、3種類の推論の傾向がうかがえた。タイプ1は、単純な動詞などで、文の意味から比較的容易に意味に到達できていた。タイプ2は、名詞と動詞で、極めて近い意味は推論されるが詳細あるいはより掘り下げた意味が推論されずにテキスト理解がおこなわれてしまう語があった。タイプ3は、特に副詞および複合語としての動詞などで、一部の意味は推論できるが、本来の意図された意味が見出されないままテキスト理解が進んでしまうものであった。

本質的調査で分かったことは、一定レベルの比較的高い語彙力の学習者の間では、文レベルの手がかりが頻繁に用いられることである。学習者としてしっかりと一文を構造的にも理解してテキスト読解を行っていく手堅さを感じられるデータであった。もっとも、そのようなレベルの読みにおいても、複雑な意味の副詞や動詞の意味の割り出しは容易ではなかったと言えよう。

(3) How Learners Infer the Meanings of Unfamiliar Words in L2 Reading Comprehension. 2016 PacSLRF. Chuo University, Tokyo にて発表。

読解過程における推論の果たす役割について、中級レベルの英語力をもつ日本人学生81名の推論について次の4つのリサーチクエスチョンを立てて調査した。

RQ-1: 未知語の推論では、どれ位成功するのか。

RQ-2: 推論のタイプでは、どれが成功に着かせるのか。

RQ-3: 学習者の推論結果の成否と推論のタイプには関係はあるのか。

RQ-4: 目標語彙については、その語彙そのものに関わる何か固有の困難さや易しさがあるのか。

以上のリサーチクエスチョンに対して、次の結果が得られた。

RQ-1: 推論によって未知語の意味を探り当てられるケースは50%以下であり、なかなか正しい意味に到達できないと言える。この傾向は、実は先行研究とも合致する。

RQ-2: 推論の手がかりの使い方、つまり、

単語、その単語を含む一文全体の意味、あるいはその一文の全体の文構造、その単語を含む一文の前後の意味、母語と目標言語との比較、一般的知識、あるいは以上の複合的活用などの手がかりの活用の仕方と、推論が正しくできるかどうかの関係は特になかった。これも先行研究とほぼ一致した。

RQ-3: 有意の相関は得られなかったが、推論する単語の含まれる文の意味を手掛かりにした推論のケースが最も推論の成功率が高かった。この結果は、先行研究とは一致しないが、本研究の上記(1) The Role of Lexical Inferencing in L2 Reading Comprehension. の結果と一部合致するものである。

RQ-4: また、新たな結果として、推論すべき語によって成功するかどうかが大きく左右されるものとみられる。これは、上記(2) Lexical Inferencing in Context in L2 Reading Comprehension の結果と合致する。この点は、本研究における新視点であり、今後推論すべき単語そのものの持つ特性によって成功率が異なってくる可能性がある事に注目すべきと考えられる。

以上、本研究における調査結果から、日本の中上位レベルの英語学習者から得られたデータの結果としては、従来の先行研究との一致点と相違点があること、および新たに推論すべき語の持つ特性に注目して新たに外国語学習における推論の果たす役割について検討する必要があると考えるに至った。今後、まだまだ未知語の推論については、探求すべきことが多く、まだまだ研究を続けて行く必要がある。

(4)本研究のまとめとして、最終年度の2月25日(土)~2月27日(月)に、台湾の研究者2名(Dr. Marcella Hu および Dr. Anna Chang)を招聘し公開に国際シンポジウムを開催した。Marcella Hu氏は、未知語の推論研究の第一人者でこのテーマで多数の優れた業績をのこしている。また、Anna Chang氏は、読解とリスニングスキルとを組み合わせた語彙習得および読解力強化の実践的研究を専門とし、第二言語習得研究に大きく貢献している研究者である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

Saito, Ryoko. (2016). Lexical Inferencing in L2 Reading

Comprehension by Japanese Learners of English. 津田塾大学『言語文化研究所報』(第31号). 査読無. pp. 49-58.

Tajika, Hiroko. (2017). Lexical Inferencing in Context in L2 Reading Comprehension. 『津田塾大学紀要』(第49号). 査読無. pp. 59-77.

Okuwaki, Natsumi. (2017). L2 Lexical Inferencing in Reading Comprehension. 津田塾大学『言語文化研究所報』(第32号). 査読無. pp. 65-71.

[学会発表](計3件)

Saito, Ryoko et al. 2015.06.13. The Role of Lexical Inferencing in L2 Reading Comprehension. CAES International Conference (Faces of English: Theory, Practice and Pedagogy). Hong Kong.

Tajika, Hiroko et al. 2016.09.03. Lexical Inferencing in Context in L2 Reading Comprehension. BAAL (British Association for Applied Linguistics 2016 Conference). Cambridge, UK.

Okuwaki, Natsumi et al. 2016.09.10. How Learners Infer the Meanings of Unfamiliar Words in L2 Reading Comprehension. 2016 PacSLRF. Chuo University, Tokyo.

6. 研究組織

(1)研究代表者

田近 裕子 (TAJIKI, Hiroko)
津田塾大学・学芸学部英文学科・教授
研究者番号: 80188268

(2)研究分担者

野田 小枝子 (NODA, Saeko)
津田塾大学・学芸学部英文学科・教授
研究者番号: 60408474

豊嶋 朗子 (TOYOSHIMA, Saeko)
国際教養大学・国際教養学部・助教
研究者番号: 20527717

奥脇 奈津美 (OKUWAKI, Natsumi)
都留文科大学・文学部・助教授
研究者番号: 6036884

星野 徳子 (HOSHINO, Noriko)
神戸市外国語大学・外国語学部・准教授
研究者番号: 70609841

齊藤 涼子 (SAITO, Ryoko)
白百合女子大学・文学部・教授
研究者番号：90758509

村杉 恵子 (MURASUGI, Keiko)
南山大学・外国語学部・教授
研究者番号：00239518

(3) 連携研究者

尾崎 恵子 (OZAKI, Keiko)
津田塾大学・付置研究所・研究員
研究者番号：70527712